(22) 外国語第 II 教育部会

教育部会名	外国語第 II 教育部会
部会長名／作成者名	谷川　真一

概　　要（2 ページ）

(1)組織・運営について

外国語第 II 部会は、選択必修科目の未修外国語(独語・仏語・中国語・ロシア語)の授業を担当する部会であるが、第三外国語の独語・仏語も本部会に組み入れられている。現在の構成員は人文学研究科・国際文化学研究科・国際コミュニケーションセンターの 3 部局に所属する教員からなり、2025 年 3 月末現在で構成員数は 25 名である。各未修外国語の担当者の内訳は次のとおりである。

独語:人文学研究科 2 名、国際文化学研究科 5 名、国際コミュニケーションセンター 3 名(うち特任外国人教員 1 名)　:計 10 名

仏語:人文学研究科 2 名、国際文化学研究科 5 名、国際コミュニケーションセンター 2 名(うち特任外国人教員 0 名)　:計 9 名

中国語:国際文化学研究科 3 名、国際コミュニケーションセンター 2 名:計 5 名(その他人文学研究科に 1 年間派遣される特任准教授 1 名も中国語を担当)

ロシア語:国際文化学研究科 1 名

幹事は 4 つの言語から 1 名ずつ選出され、2019 年度まではそのうちひとりが互選で部会長となっていたが、2020 年度以降は構成員の選挙により部会長を選出することとなった。部会長は所属する言語の幹事もつとめ、独・仏・中・ロシア語の幹事 4 名が幹事会を構成している。部会の運営は基本的には幹事会の合議で行われる。本部会の提供する授業科目は総計(セメスター単位)で 387 コマあり、非常勤講師担当率(独語:48%、仏語:53%、中国語:81%、ロシア語:84%)が高く、他の部会と比べると、非常勤講師の任用や様々な連絡などの面で部会にかかる負担がかなり大きい。専任教員と非常勤講師の意見交換や授業における連携を緊密に行う必要もあるため、ドイツ語やフランス語ではセメスターの初めに、非常勤講師への挨拶や、事務連絡をかねて非常勤講師との懇談会をおこなっている。ロシア語でも学期ごとに非常勤講師を交え、授業の進め方や教科書の利用法についての検討会を開き情報交換をおこなっている。中国語は非常に多くの非常勤講師を雇用するため、新任非常勤講師に対して、事前指導を行っている。未修外国語の専任教員グループでは必要に応じて会議を開き、各種の懸案について適宜話し合いの場を設けている。

(2)実施状況について

本部会の提供する授業科目は積み上げ方式になっている。以下にカリキュラムの体系を掲げる。

[初級～中級前期]

・1 年:前期(初級 A1, A2, 初級 B1, B2)
後期(初級 A3, A4, 初級 B3, B4, 初級 SA3, SA4, 初級 SB3, SB4)
・2 年:前期(中級 C1, C2)

[中級後期～上級]*高度教養科目
・2 年:後期(外国語セミナーA, B)
・3 年:前期(外国語セミナーC, D)、後期(外国語セミナーE, F)

各科目の授業目的等については、シラバスに掲載されるとともに『外国語教育ハンドブック』（オンライン）にも明記され、周知が図られている(たとえば初級 A クラスでは基礎的な文法・発音の習得が目的とされ、初級 B クラスでは総合的・実践的な言語運用能力の習得が目指されている)。
1 年次後期のインテンシブ・クラス（SA、SB）では、日本人教員とネイティブスピーカーの教員が緊密に連携して、高度なコミュニケーション能力の養成が図られている。さらに 2013 年度からの取り組みとして、SA、SB から継続して学べる中級クラス（5 限開講）が設定されている。一方、2 年次には「第三外国語」が選択科目として開講され（T1、T2、T3、T4)、1 年次とは異なった外国語の初級 A クラスを受講することができる仕組みが導入されている。「第三外国語」は、意欲的な学生のために複数の外国語の学修に道を開く科目であり、これによって異文化理解の可能性がより広がることが期待されている。

他方、具体的な授業の取り組みとしては、様々な情報機器やインターネット、各種メディアの利用、DVD、CD などの視聴覚教材の活用、対話型学習やペア学習、グループワーク、反転授業、国際的な学習参照基準の活用、IL&AL 室の使用など、最新の教授方法に基づく様々な授業の工夫が行われている。また、小テストなどで学生の理解度を確認しながら授業を進めるとともに、文化事情を紹介するなど学生の異文化への関心と理解を促す努力をおこなっている。コロナ禍による経験から、様々なオンライン教材の開発や海外大学との連携授業など最先端の試みも取り入れている。国際コミュニケーション主催の授業改善のための FD 活動もおこなっており、今年度は 2024 年 12 月 6 日に外国語教育ピアレビューを行った。

(3)課題について

本部会の抱える課題の一つに、言語別の履修者数が毎年変動することてがある。従来は部会内のクラス数の合計を変えずに、履修者の過去の動向を見て言語間で調整を図ってきたが、それでもなおクラス規模の不均衡は完全には解消されなかった。こうした事情をふまえて 2018 年度より、履修言語の選択について、学生に第 1 希望と第 2 希望の言語を選んでもらった上で抽選を行う、「抽選制」を導入した。抽選制の在り方にはまだ改善の余地があり、今後さらにこの制度の整備を進めていきたい。

「第三外国語」のうち韓国語・スペイン語・イタリア語については、大学全体の予算 の関係で、2018 年度より不開講となり、2020 年度より廃止され、国際人間科学部や文学部等で開講されてきた。2023 年度より再び高度教養科目「多言語セミナー」として上記 4 言語およびラテン語、ウクライナ語が国際教養教育院で開講された。2024 年度はどの言語にも多くの履修希望者が集まった。多言語セミナーは 2025 年度から新たに国際教養部会のもとで開講されることになっている。

(3)総合所見
教養教育改革を念頭に、幹事会及び総会時には、外国語第Ⅱの専任教員間で活発な意見交換が行われた。各言語における問題点、共通の問題点などを教員間で共有できたことは大変有益であったと考えられる。しかしながら、中国語、ロシア語の非常勤講師依存率が大変高いこと、特にロシア語は紛争による学習者減への対策が望まれるが、専任教員が 1 人だけの体制がしばらく続くと考えられるため、業務負担がこれ以上増えない体制をしっかりととっていくことが必要である。ドイツ語、

フランス語では、優秀な母語話者教員の確保に課題が残されている。母語話者教員の確保は中国語以外の言語での共通の問題となっているため、留学生の授業参加や、海外からのインターンシップ受け入れなど今後なんらかの新たな取り組みが必要と考えられる。

また、2025 年度に新設されるシステム情報学部（定員 150 名）が外国語第 2 科目の履修を必修としないことが決定され、それに対して本部会の一部の教員から、何らかの対策を講じるべきとの意見が出された。これに関しては、今後引き続き議論を行っていきたい。

Ａ　組織構成と運営体制について

①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか（100 字程度）

外国語第Ⅱ教育部会の 25 名の構成員はそれぞれの言語グループ内で緊密に連絡を取り 合い、何か問題や提案がある場合は即座に幹事会を開き、必要に応じて総会を開催するという体制が適切に機能している。
根拠資料 教育部会構成員名簿、幹事会の記録

Ｂ　内部質保証について

①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか（100 字程度）

各クオーターの最後の授業中に学生に振り返りアンケートを記入してもらい、授業担当 者はそこに書かれた学生からのコメントに回答するよう要求されている。また、シラバ スには「今年度の工夫」欄を設けて学生からの意見を反映した取り組みがわかるように なっている。
根拠資料 授業振り返りアンケート結果、シラバス（今年度の工夫)、前年度までの自己点検・評価報告書

②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか（150 字程度）

外国語第Ⅱ教育部会の自己点検・評価によって確認された問題点を改善する対応措置を 講じるために各言語グループ内で意見を出し合い、それを幹事が幹事会に持ち寄って対応措置案を策定し、構成員の承認を得て実行している。またその取り組みの進捗状況については、幹事会で随時検討して確認を行っている。
根拠資料 前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス（今年度の工夫）

③授業の内容及び方法の改善を図るためのＦＤを組織的に実施しているか（100 字程度）

今年度は国際コミュニケーションセンター主催で、英語、中国語のピアレビューを行った。その他、言語グループの枠を超えた教員間の情報交換を幹事会、専任教員会議、専任および非常勤教員間の懇談などを開催して行っている。
根拠資料 会議の開催通知、記録、外国語教育ピアレビューの記録（国際コミュニケーションセンターHP）

④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるとともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか（100 字程度）

国際コミュニケーションセンター・ヘルプデスクに AL＆IL 教室での授業を援助する人員が配置されている。TA 配置を希望する授業には、SA または TA を配置し、オンライン教材の活用を含めた授業を円滑にするための努力がなされている。さらに、グローバル教育センター海外派遣教育部門、国際人間科学部 GSP オフィスからの海外留学情報等を適宜部会構成員に流し、海外留学を目指す学生の語学学習のモティベーションを高めている。

根拠資料 国際コミュニケーションセンター・ヘルプデスクの業務記録、メール

C　教育課程と学習成果について

①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものとなっているか（100 字程度）

本教育部会の提供する授業の目標は全学共通科目の区分ごとの学修目標に対応したもの となっており、多くの授業で最新の教科書が使われ、基礎的な学力と異文化への関心と 理解を促しつつ実戦的な運用能力の向上をめざしている。
根拠資料 『外国語教育ハンドブック』、シラバス、教科書、授業中に配布した資料、授 業で使用した視聴覚教材

②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100 字程度）

各言語教員グループ単位で授業担当者に対して共通目標や学部からの要請を伝えている。『外国語教育ハンドブック』を授業担当者にもあらかじめ配布して、授業の 到達目標や進め方に配慮を求めている。また、新任の教員にはガイダンスを行っている。
根拠資料 『外国語教育ハンドブック』、シラバス、各教員の自己点検・評価シート

③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100 字程度）

ほとんどの授業で最新の教科書が使われており、比較文化的内容のもの、各種情報メディアやインターネットなどを通したアクチュアルなニュースを扱うものなども多く、「外国語の基礎的な学力と教養を身に付ける」という到達目標を達成するものとなっている。
根拠資料 シラバス、教科書、授業中に配布した資料、授業で使用した視聴覚教材、各 教員の自己点検・評価シート

④単位の実質化への配慮がなされているか（100 字程度）

なされている。最終試験以外に、小テストや中間テストを実施して理解が不十分なところを学生に自覚させる授業や毎回課題を出す授業も多い。
根拠資料 シラバス、小テスト、レポート課題、出席簿、授業振り返りアンケート、教材、各教員の自己点検・評価シート

⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150 字程度）

初級外国語の授業では一方的に指導するのではなく、各授業の目標とクラスサイズに応じて適切な学習指導法を採用し、アウトプットが多くなる活動を工夫している。たとえば、様々な情報機器やインターネット、各種メディアの利用、DVD など視聴覚教材の活用、対話型学習やグループワーク、反転授業など、最新の教授法に基づく工夫が見

られる。
根拠資料 『外国語教育ハンドブック』、シラバス、授業中の配布資料、授業記録、各教 員の自己点検・評価シート

⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前･事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50 字程度）

すべての構成員が全項目記入している。
根拠資料 シラバス

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100 字程度）

行われている。専任教員は研究室やオフィスアワーの情報をシラバスに記入して、個々 の学生のニーズに応じた履修指導や助言等をしており、非常勤教員は授業の前後の時間 をそれにあてている。今年度もコロナ感染等で対面参加できない学生に対しても、LMS システム（BEEF）やメールなどの通信手段で対応した。
根拠資料 シラバス、BEEF

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100 字程度）

専任教員は研究室やオフィスアワーの情報をシラバスに掲載し、個々の学生の学習相談に応じる体制を整備し、学生への適切な助言・支援を行っている。非常勤教員は授業の前後の時間をそれにあてている。今年度はメール、BEEF のチャット機能、Google ワークスペース等を活用し、課題や質問・コメントの提出とそれへの解答、などで行った。
根拠資料 シラバス、各教員の自己点検・評価シート

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100 字程度）

幹事会において科目単位で成績分布が適正であることを確認しており、適正でない場合 は関係教員に幹事から注意を促している。
根拠資料 シラバス、試験答案、成績分布（教養教育委員会資料）

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100 字程度）

学生の振り返りアンケートでは各言語ともほぼ全項目にわたって「中」以上の良い評を受けている。外国語学習を通して各言語圏の文化や社会などに興味を持つようになった学生や海外研修への参加を希望する学生も多い。
根拠資料 試験答案、授業振り返りアンケート結果